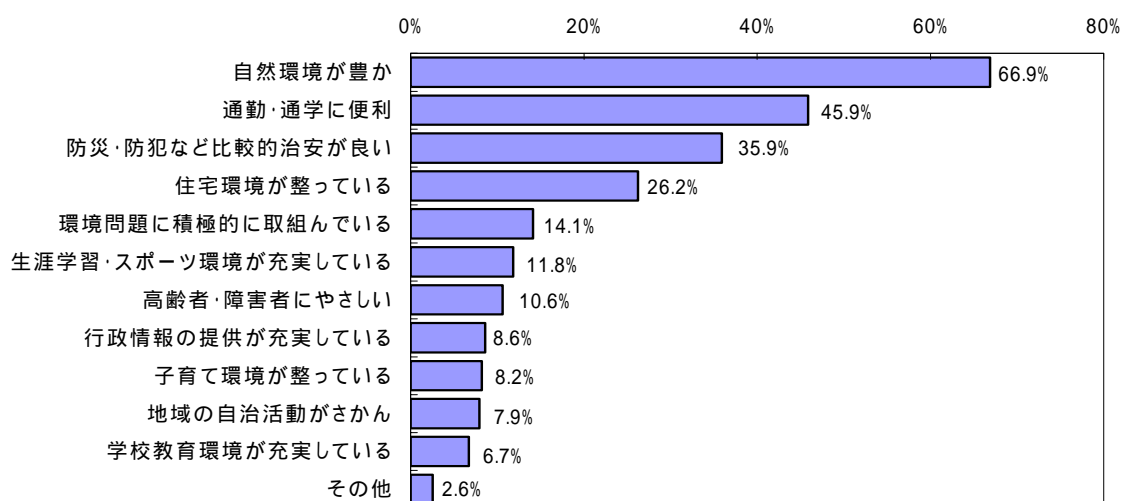


第9章 住民意識調査に対する考察

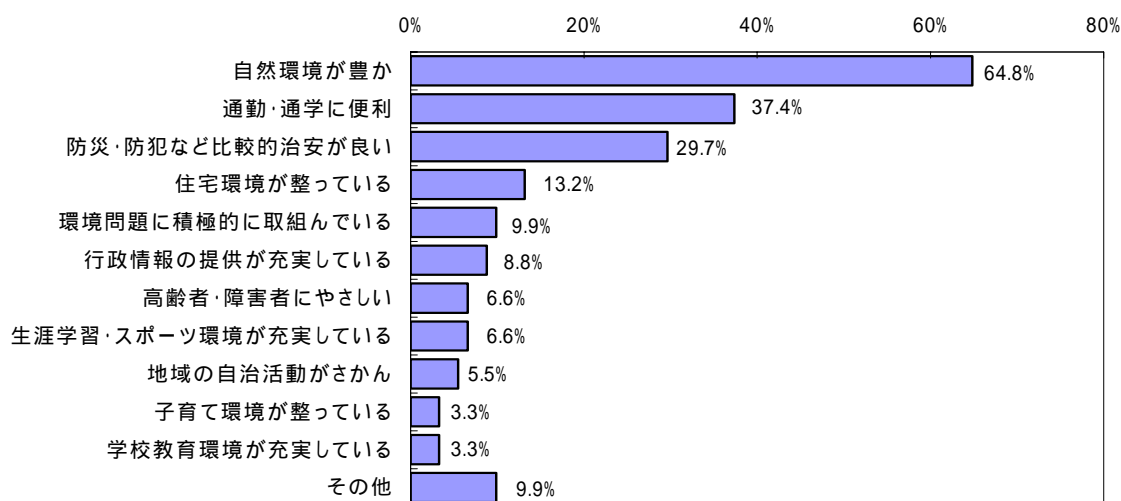
(1)「住み心地」に関する考察

問7の回答結果から、「住みやすい」回答と「どちらかといえば住みやすい」回答を合わせた「住みやすいグループ」と、「住みにくい」回答と「どちらかといえば住みにくい」回答を合わせた「住みにくいグループ」をつくり、問8の「住み心地が良い点」の回答結果を比較した。上位回答の順序は、両グループ同一であるが、「住宅環境が整っている」割合は、両グループで13.1%の乖離があり、最も大きかった。

住みやすいグループの「住み心地の良い点」



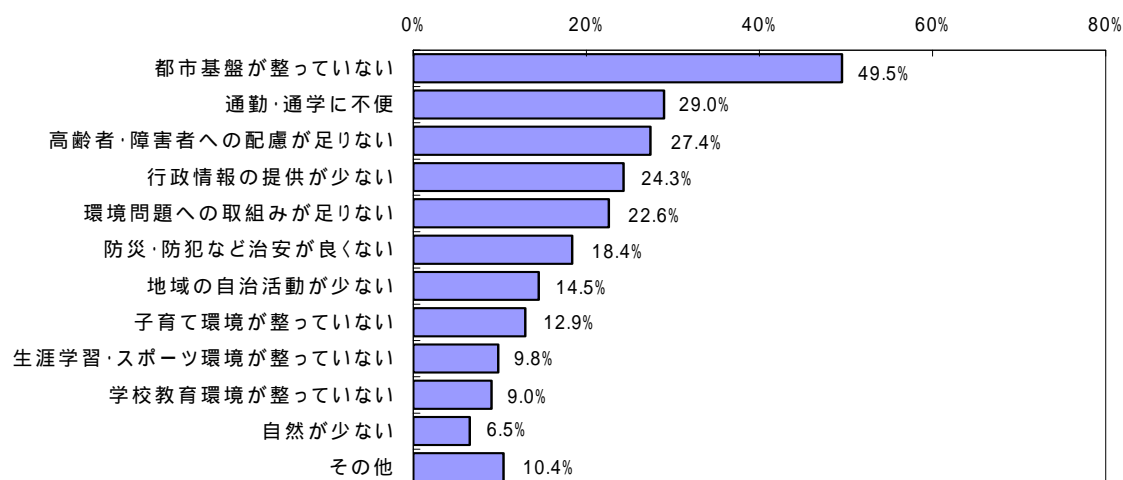
住みにくいグループの「住み心地の良い点」



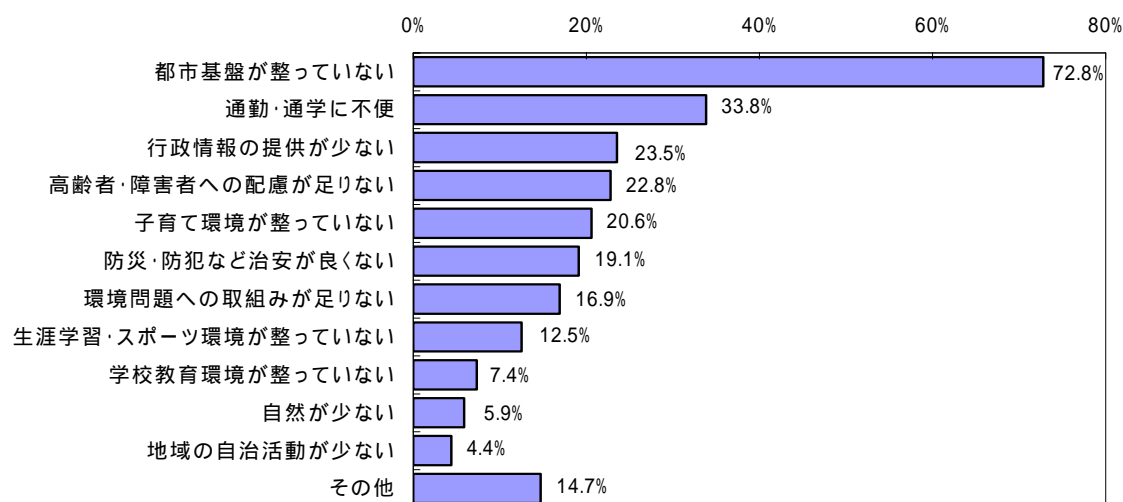
また、両グループで、「住み心地の悪い点」を比較したところ、「都市基盤が整っていない」割合は両グループで 23.3%の乖離があり、最も大きかった。

こうした結果から、住民の「住み心地」を満足するまちづくりを進めるためには、住宅環境と都市基盤の整備を重視しなければならないことがうかがえた。

住みやすいグループの「住み心地の悪い点」



住みにくいグループの「住み心地の悪い点」



(2) 「優先度」に関する考察

分野別の「優先度」

問 1 1 の「優先すべきである」と「やや優先すべきである」を合計した「優先」から、「あまり優先しなくてよい」と「優先しなくてよい」を合計した「非優先」を差し引き、これを優先度とみなし、6 分野ごとの平均「優先度」を算出した。その結果は下表のとおりである。

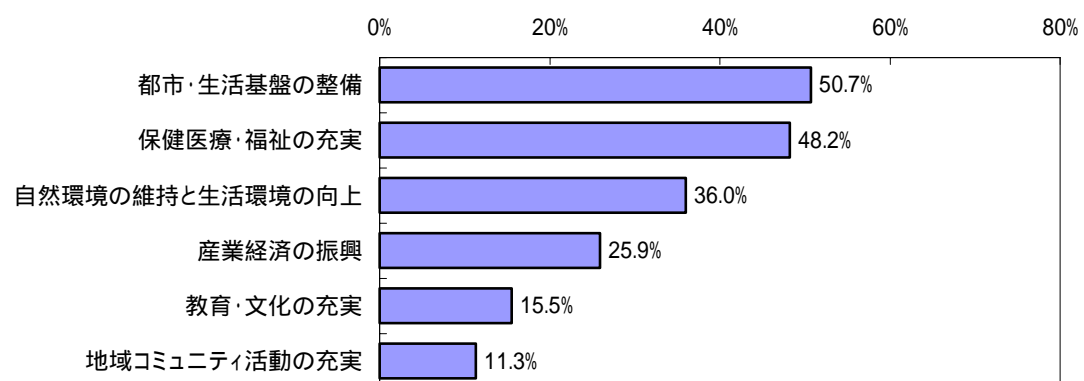
「優先」から「非優先」を差し引いた「優先度」は、「保健医療・福祉の充実」分野が最も高く、次いで「自然環境の維持と生活環境の向上」分野、「都市・生活基盤の整備」分野の「優先度」が高かった。

分野別の平均「優先度」

分野	平均 「優先度」
・保健医療・福祉の充実	59.4%
・自然環境の維持と生活環境の向上	53.1%
・都市・生活基盤の整備	47.0%
・教育・文化の充実	41.1%
・産業経済の振興	30.4%
・地域コミュニティ活動の充実	21.3%

一方、問 1 0 「今後優先すべき分野」の回答は、下表のとおりである。「都市・生活基盤の整備」が最も優先すべき分野となっているが、問 1 1 の 3 0 項目別の優先度とあわせて考えると、「保健医療・福祉の充実」も「都市・生活基盤の整備」と同等に最優先していくべきことがうかがえる。

問 1 0 「今後優先すべき分野」



項目別の「優先度」

30項目別の「優先度」は、下表に示すとおりである。「優先度」が高い項目は「10.防犯・交通安全対策の充実」「17.健全な青少年の育成」「12.高齢者福祉・介護支援の充実」「5.汚水処理の充実」「16.学校教育・教育環境の充実」などであった。

安心できる暮らし、教育の充実、高齢化社会への対応、そして都市基盤の整備などが期待されていることがうかがえた。次期振興計画では、優先度の高い項目に対して、特に十分な施策や事業を検討していく必要がある。

30項目別の「優先度」

順位	30項目	優先	非優先	優先度
1位	10.防犯・交通安全対策の充実	82.2%	5.3%	76.9%
2位	17.健全な青少年の育成	82.2%	5.8%	76.4%
3位	12.高齢者福祉・介護支援の充実	80.7%	8.2%	72.5%
4位	5.汚水処理の充実	78.7%	7.9%	70.8%
5位	16.学校教育・教育環境の充実	76.1%	5.5%	70.6%
6位	9.防災機能の向上	73.8%	10.3%	63.5%
7位	14.子育て支援策の充実	73.0%	9.5%	63.5%
8位	13.障害者福祉の充実	71.4%	10.2%	61.2%
9位	7.リサイクルの推進	69.4%	14.8%	54.6%
10位	15.社会保障・生活援護の充実	68.6%	14.3%	54.3%
11位	25.雇用機会の提供	66.0%	12.7%	53.3%
12位	4.良質な水道水の供給	69.6%	16.9%	52.7%
13位	6.自然環境の保護	68.3%	16.4%	51.9%
14位	29.積極的な行政情報の提供	67.1%	15.2%	51.9%
15位	1.計画的な市街地整備	64.6%	14.2%	50.4%
16位	11.健康づくりの推進	64.9%	19.4%	45.5%
17位	23.商業振興	58.1%	17.2%	40.9%
18位	2.利便性の高い道路網の形成	59.0%	24.5%	34.5%
19位	18.生涯学習の充実	57.0%	23.1%	33.9%
20位	3.公共交通の充実	54.3%	27.6%	26.7%
21位	21.農林業振興	50.1%	23.8%	26.3%
22位	22.工業振興	50.3%	24.4%	25.9%
23位	26.地域コミュニティの活性化	51.4%	26.7%	24.7%
24位	30.公聴活動の充実	46.2%	26.6%	19.6%
25位	8.公園・緑地の充実	50.9%	32.3%	18.6%
26位	20.生涯スポーツの充実	46.5%	32.5%	14.0%
27位	19.文化・芸術活動の充実	45.2%	34.7%	10.5%
28位	24.観光振興	40.2%	34.7%	5.5%
29位	27.地域自治活動への参加促進	40.9%	35.5%	5.4%
30位	28.男女共同参画の推進	39.4%	34.7%	4.7%

(3) 「 3 0 歳代 」 に対する考察

問 6 「高根沢町に対する愛着」に関して、「30歳代」の「愛着を感じている」回答割合は最も低く、さらに問 7 「高根沢町の住み心地」に関して、「30歳代」の「住みやすい」回答割合は最も低くなっている。

「30歳代」は、将来の高根沢町を担う世代であるとともに、人生の中で持ち家を取得する割合が最も高い年代である。こうした年代が高根沢町に対して厳しい見方をしていることを危惧する必要があると考えられる。よって、「30歳代」が高い優先度をつけている「14.子育て支援策の充実」「16.学校教育・教育環境の充実」「17.健全な青少年の育成」なども、次期振興計画では重視していく必要がある。